

歌を忘れたカナリアにならぬよう

働くもののいのちと健康を守る全国センター職員
古典曲を演奏する合唱団所属
「ウェブマガジン・のたる」編集長

宮沢 さかえ

私は、2つの合唱団に所属しています。それぞれ、3月と4月に演奏会が予定されていました。

3月の演奏会を予定していた団は合奏隊と合唱隊があり、普段から一緒に練習（分奏の日もあり）しています。演奏会直前の定例練習日は、感染防止のために分奏か広い部屋が使える短時間にすかの検討から中止になり、本番前日のステージリハも心配な人は不参加も可能との指示も出ました。一方で、本番の結構についても出演者・来場者両方への配慮を求める声も出され、運営委員は本当に苦労したことを思います。

結局、3月に予定していた演奏会は延期も断念し、中止になりました。演奏会までに中止になった練習指導の謝礼は、支払いをしたとの報告を受けています。また、公営の会場でしたので、使用料は全額返金になっています。また、次期演奏会の半年後程度に中止した演奏会の曲目で演奏をする予定にもなっています。

4月に予定していた演奏会は、私は仕事の都合で出演できない予定でしたが、こちらは来年2月に延期になり、出演ができることになりました。民間のホールなので中止にしても使用料は返金にならないため、ホールで練習する計画がありました。けれども、緊急事態宣言が出されて、ホールの使用ができなくなったことから使用料が返金されることになり、ステージでの練習も中止になっています。

通常練習には民間施設を利用していますが、使用自粛要請から使用不可になりました。この団の指導者は牧師で、教会での学びの会が企画されましたが、緊急事態宣言を受けてこれも中止になりました。こちら、運営委員の討議と配慮は行き届いていて、素早い対応と対策が取られていると感じています。

このような経過を経て、どちらの団も演奏会後の新期練習は中止状態ですが、Zoomによるミーティングでレクチャーが行われています。オンライン演奏練習も試行されたようですが、それなりの器材やシステムを利用しないと音ズレなどがおきて実行は難しいとの判断に至ったようです。

合唱団員間での集団感染がおきたり、自粛要請が出ているのに公民館で合唱団が練習をしているとの批判が出たりす

る度に、「ああ、また合唱団に対する目が厳しくなるなあ」と感じていました。また、多くの合唱団が会場費がかからない公共施設を利用していると思いますので、使用不可期間は注意を守って活動することもままなりません。

「歌を忘れたカナリア」にならない内に、思い切り練習ができる日が来ることを、心待ちしています。

【発行責任者よりひとこと】

「働くもののいのちと健康を守る全国センター」は、文字通り働くもののいのちと健康を守るための活動を全国展開する組織です。人間らしく働けるよう労働安全についての研究や啓蒙活動などを行っています。都道府県のセンターや労働組合、医療機関、個人では弁護士や医師などで構成されています。

ポストコロナの合唱活動を考えよう

5月10日で閉鎖！

4月25日、合唱指揮者・千葉敏行氏により facebook に開設されたグループ<ポストコロナの合唱活動を考えよう>は瞬間に1500人以上の登録があり、今後の合唱界のあり方について熱心な討議がなされてきましたが、5月10日をもって惜しまれながらも閉鎖されました。まだ議論を尽くしたというところまではいかないと思いますが、たくさんの課題や提案が出され、タイムリーな企画で大いに意義がありました。過去の投稿はアーカイブされいつでも見られるようになっています。

千葉氏は最後の挨拶で、「東日本大震災後、音楽は灯となりました。合唱は人の力となりました。合唱は新しい時代に入ったはずでした。しかし、コロナにより、私たちの合唱活動は休止状態に。誰がこんなに長きにわたると予想したでしょうか。そして、その夜明けは光すら見えません。リモートコーラスやオンラインレッスンは、可能性はありますが、（…中略…）日本の合唱人はそのようなこととは縁遠い活動をしています。そういった人々や合唱団は淘汰されていくことこそが、日本の文化・芸術の危機ではないでしょうか。（…中略…）

危機は人間を進化させます。危機感を共有し、連帯し、できることから一つ一つ丁寧に進めていくことによって、ウイズコロナのリアル合唱練習も可能になるはず。分断から融和へ、連帯で未来を切り拓きましょう。」と締めくくりました。

いずれ何らかの形で多くの方が集えるプラットフォームができることを期待しています。

(加藤良一)